

然レトモ其携行爆薬ノ僅少ナルト運轉材料ノ貯藏少キトヲ以テ大破壊  
 及大飛行ハ通常實施スルコト能ハス之カ爲甲國ノ首都ハ假令比較的國  
 境ニ近接シアリト雖モ乙國首都ニ比シ敵ノ攻撃ニ對シテ危險ヲ免ルル  
 コトヲ得ヘシ是ニ由テ之ヲ觀レバ其最良ナル空中艦隊ノ主力ハ戰艦及  
 巡空艦ノ二種ノ艦型ヲ具備スルコト必要ナルヲ知ルヘシ  
 今若シ兩交戰國ノ一方ニシテ空中艦隊ヲ備ヘサルカ或ハ若シ之ヲ備フ  
 ルモ最モ微力ナリトセハ其狀況ノ不利ナル蓋シ判斷スルニ難カラサル  
 ナリ

即チ甲國ハ其空中艦隊ヲ使用シテ敵ノ凡テノ行動ヲ悉知シ其宣戰ノ布  
 告ト共ニ大膽ナル奇襲ヲ試ミ又夜暗ヲ利用シテ國境ヲ通過シ要塞、築城  
 陣地、開進軍隊其他軍事上ノ目的ヲ以テ施設シタル諸物件ニ對シ大ナル  
 損害ヲ與ヘ爲メニ其無形上ニ及ホス効果頗ル大ナリ斯ノ如クナルトキ  
 ハ其國境ノ要點ニ豫メ設置セシ氣球射擊砲モ其用ヲ爲スコトナク又其  
 一部ハ中立地ノ空界ヲ經テ大迂回ヲ爲シ敵ノ動員地、主要ナル停車場、大  
 橋梁、交通連絡線其他軍用倉庫所在地等ノ要地ヲ目標トシテ飛行シ不意

ニ頭上ヨリ攻撃ヲ爲シ軍隊ト國民トニ一大騷擾ヲ與ヘテ其志氣ヲ沮喪  
 セシム若シ此ノ如キ企圖ニシテ續發スルニ方リテハ已ニ眞面目ノ交戰  
 ヲ開始セサルニ先チ乙國ニ戰慄スヘキ打撃ヲ蒙ラシムルノミナラス延  
 テ全戰役ノ運命ニ關係ヲ及スニ至ルコトアリ  
 今若シ乙國ノ首都ニシテ其國境ヨリ百乃至二百哩ヲ隔ツルノミナルト  
 キハ宣戰布告ノ日ニ於テ已ニ此地ニ達シ熱狂ナル敵愾心ト血液湧クカ  
 如キ興奮ノ狀勢ニアル全首都ヲ脅威シ悠悠々自如トシテ天空ヨリ攻撃ヲ  
 加フル時ハ其國民驚愕ノ景況果シテ如何到底筆紙ノ能ク盡ス所ニ非ル  
 ナリ  
 斯ノ如クシテ其軍隊及全國民ハ敵ノ作戰計畫ノ遙ニ我ニ優リタルコト  
 ヲ感知シ其初メニ受クル惡影響ハ終ニ全戰役ヲ通シテ不良ナル結果ヲ  
 來スルニ至ルヘシ  
 以上述ヘタル所ハ單ニ陸上ニ於ケル作戰ニ關連スル空中ノ交戰ナリト  
 雖モ海上ニ於ケル作戰ニ於テモ亦交戰ノ原則及要領毫モ異ナル所ナク  
 唯海上ヲ飛揚シ及攻撃目標ノ撰擇ヲ異ニスルノミ故ニ再ヒ茲ニ之ヲ述



フルハ却テ冗長ニ亘ルノ恐アルヲ以テ之ヲ省略ス  
 飛行機ハ目下ノ所各國共未タ軍事上ノ任務ヲ遂行スルニ充分ナラスト  
 雖モ彼ノブレリオ氏ノマンシユ海峽横斷以來大ニ世人ノ注意ヲ惹キ早  
 晩戰場ニ現出スルコトハ疑ナシ而シテ其ノ價值ヲ賞揚スル者ハ曰ク此  
 機ハ僅カニ二人ノ乗込員ヲ有スルニ過キサレトモ其速力ノ大ナルト敵  
 眼ヲ避クルニ便ナルトハ遙カニ氣球ニ勝ル所ニシテ軍事上ニ於ケル傳  
 令勤務ニ使用シ其速力自働車ノ及ハサルコト遠シ又或ル場合ニアリテ  
 ハ決戦ノ瞬時ニ於テ假令其活動ノ範圍ハ狭少ナルニモセヨ戰鬪器具ト  
 シテ攻撃ニ使用シ且將來ノ空中戦ニ於テ恰モ海戦ニ於ケル水雷艇ノ如  
 ク空中艦ノ攻撃ニ使用セララルルニ至ルヘシ而シテ此ノ如ク實用ニ供シ  
 得ルハ蓋シ近キ將來ニ在リト云フヘシ

## 第九章 空中飛行器ト國際法

近時飛行器ノ研究漸ク盛ニシテ各國競テ之カ改良發達ヲ計リツツアル  
 ヲ以テ其實際的使用ハ蓋シ近キ將來ニ在アルヘシト雖モ未タ之ニ關シ  
 テ國際間ノ實際問題ヲ生シタルコトナク從テ又國際法上何等規律ノ存  
 スルナシ然レトモ飛行器ノ發達ハ上述ノ如ク其進歩著シキヲ以テ之ヲ  
 實用ニ供スルニ及ヒ國際上ノ問題ヲ惹起スルノ日亦遠キニアラサルヘ  
 シサレハ近時歐米ノ學者ニシテ飛行器ニ關スル國際法ヲ論スルモノ少  
 カラサルヲ見ル但其ノ所說ニ至テハ紛々トシテ歸一スルコト無キモ他  
 日飛行器ノ完成ニ伴ヒ國際法上何等カノ規定ヲ設クルノ必要アルハ固  
 ヲリ言ヲ俟タサルヘシ  
 想フニ飛行器ニ關シ將來惹起サルヘキ國際法上ノ問題ハ空間ニ及ホス  
 國權ノ範圍ニ關スル問題、空中飛行權ニ關スル問題及戰時ニ於ケル飛行  
 器使用ニ關スル問題等ヲ主要ナルモノトスヘシ而シテ右ノ三點ハ互ニ  
 相關聯シ空間ニ及ホス國權ノ範圍確定スルニ於テハ空中飛行權ニ關ス



ル根本的原理モ自ラ解決スヘク又戰時ニ於ケル飛行器ノ諸問題中ニモ  
關聯スル所少カラサルニ依リ飛行器ニ關スル國際法上ノ根本的先決問  
題ハ空間ニ及ホス國權ノ範圍如何ニ存スト謂フヲ得ヘシ而モ此ノ根本  
的問題スラ猶ホ學者ノ見解一定スルニ至ラス況ンヤ其他ノ諸點ニ至リ  
テハ學者ノ見解千態萬狀ニシテ歸一スル所無キハ誠ニ已ムヲ得サルナ  
リ之ヲ以テ今左ニ飛行器ニ關スル學說ノ一斑ヲ掲クルニ止メ確定的國  
際法規ニ至テハ之ヲ他日ニ俟タント欲ス

第一款 空間ニ及ホス國權ノ範圍ニ關ス

ル問題

空間ニ及ホス國權ノ範圍トハ國際法上國家ノ主權ハ空間ニ及フヤ否ヤ、  
若シ及フトセハ其ノ距離如何、其ノ程度如何、他國又ハ他國人ハ之ヲ使用  
シ得ルヤ否ヤ、使用ニ關スル條件如何等ノ諸問題ヲ一切包含スルモノニ  
シテ此ノ問題ハ管ニ飛行器ニ關スルノミナラス無線電信其他汎ク空中  
ノ使用ニ關スル事件ニ適用スルハ勿論ナリトス而シテニイス氏ハ空間

ハ之ヲ海洋ニ又飛行器ハ之ヲ船舶ニ比スヘシト論シ、フアフィユ氏ハ空  
間ヲ全然自由トシテ開放スルハ國家ノ自衛上危險ナリ故ニ國家ハ領土  
ノ上ニ存在スル空間ニ對シ其ノ安寧秩序ヲ維持スル爲メ必要ナル權利  
ヲ有スト説キ、其他ホルツェンドルフ、グリユンバルト、ロルランド、ヘアル  
ネ等ノ諸氏モ空間ニ對シ一定ノ主權ヲ認ムルノ點ニ付テハ皆相一致ス  
ル所ニシテ、全然空間ヲ以テ自由トシ國家主權ノ及フ範圍ニアラストス  
ルノ學者アルヲ見ス是レ固ヨリ國家生存上至當ノ事ト謂フヘシ茲ニ於  
テカ領空即チ國權ノ空間ニ及ホス範圍ニ關スル問題ヲ生ス

其一 領空

國家ノ自衛上其ノ主權カ空間ニ及フヘキハ學者ノ均シク是認スル所ナ  
リト雖トモ果シテ其ノ主權ノ及フヘキ高サ如何ニ關シテハ諸種ノ議論  
アリ、曾テホルツェンドルフ氏ハ高サ千米ヲ以テ領空ノ限界トスヘシト  
稱ヘ、ロルランド氏ハアイフェル塔ノ高サヲ基礎トシテ三百三十米ヲ限  
界トスヘシト論シ、フアフィユ氏ハ千五百米ヲ以テ限界トスヘシト説キ、



其他或ハ飛行可能ノ程度ヲ以テ限ラントスル者等アリテ學說全ク一定スル所ナシ蓋シ所有權ハ土地表面ノ上下ニ及フト謂フ羅馬法以來ノ私法ノ觀念ヲ直チニ採テ領土主權ニ適用セムトスルノ不可ナルハ勿論、自由交通ヲ主義トスル現代ノ國際關係ニ在テ領空ノ限界ヲ定ムルニ飛行可能若シクハ空氣ノ存在ヲ標準トセントスル如キハ不可ナリ人工的最高建設物ヲ基礎トセルロルランド氏ノ三百三十米說、空中寫真機ヲ基礎トセルフアフィユ氏ノ千五百米說等ハ多少ノ根據ナキニ非ルモ未タ以テ完全ナルモノトスヘカラサルカ如シ然レトモ國際法上領海ニ關シテモ必シモ各國ノ採用スル主義一致セサルノ情態ナルカ故ニ今俄ニ領空ノ限界ヲ確定スルコト困難ナルハ勿論ニシテ、徐ロニ國防、警察及公安等ヲ基礎トシテ法規ノ確定ヲ計ルヲ必要トスヘシ

### 其二 領空權ノ内容

領空内ニ於ケル領空權ノ内容如何ニ付テハ固ヨリ國際法上何等ノ法規慣例無ク學者ノ論スル所亦一ナラス或ハ領空ハ全然其ノ國ノ領土ト同

一ノ性質ヲ有スルモノトノ見解ノ下ニ平時タルト戰時タルトヲ問ハス之ヲ使用スルニハ特別ノ許可ヲ要スト主張スルモノアリ或ハ領海ノ場合ニ於ケルカ如ク一般ノ交通ノ爲メニハ之カ使用ヲ自由ニスルヲ原則トシ特ニ國防又ハ警察等ノ必要アル場合ニ限り之ヲ制限シ得ヘシト說クモノアリ、主義トシテハ後者ヲ妥當ナリトスルモ、詳細ノ原則ニ至リテハ何等確定的主張アルヲ聞カス但飛行器ノミニ關シテハ學者間ニ多少ノ主張アルヲ以テ後段ニ述ル所アルヘシ

### 其三 他國又ハ他國人ノ領空使用權

領空權ノ内容ト他國又ハ他國人カ之ヲ使用スルノ權能トハ自ラ相影響スヘキハ勿論ニシテ領空權カ絶對ニシテ且普遍的ナリトセハ他國又ハ他國人ノ使用權ハ自ラ特別ノ場合ニ於ケル例外的ノモノナラサルヘカラス、之ニ反シ領空權カ特別ノ必要アル場合ニ限ルモノトセハ他國又ハ他國人ノ使用權ハ原則的ナラサルヘカラサルノ結果ヲ生スヘシ、今日國際法上是等ニ關シ何等ノ規定無キハ前述ノ如クナレトモ事實ニ於テ空



間ノ使用ヲ絶對ニ禁スルハ不可能ナルノミナラス交通ヲ原則トスル今日ノ國際關係ニ於テハ必要ノ場合ヲ除クノ外其ノ使用ハ自由ナリトスルノ原則ヲ可トスヘキカ如シ

### 第一款 空中飛行權ニ關スル問題

前述ノ如ク空間ニ關スル國際法未タ發達スルノ域ニ至ラス從テ領空及領空ノ使用ニ關スル諸原則モ確定スルニ至ラサルト共ニ空中ノ飛行ニ關シテモ亦何等國際法上ノ定説アルヲ聞カス然レトモ飛行器ノ發達ハ早晩國際的ノ問題ヲ惹起スルハ明ニシテ之ニ關スル國際法規モ亦確定セラレサル可カラサルハ明ナリ而シテ空間ヲ分テテ領空及領空ニアラサル空間之ヲ公空ト稱センニ分テ領空ハ或ル程度ニ於テ國家主權ノ及フ所トシ公空ハ孰レノ國ニモ屬セス全ク各國ノ自由交通ニ解放セラレヘキハ學說略一致スル所ナルコト又前ニ述タル所ナリ茲ニ空中飛行權ニ關スル問題ヲ研究スルニ當リテモ領空ト公空トハ自ラ異ラサル可カラサルモノアルハ勿論ナリトス

### 其一 公空ニ於ケル飛行權

領空ノ限界カ如何ニ決定セララルトモ公海上ノ空間及領空ノ限界以外ノ空間ハ一國主權ノ專有ヲ許スヘキニアラス故ニ此ノ空間即チ公空ニ於ケル飛行權ハ各國ノ自由ニ委セラレヘキコト猶公海ニ於ケル航行ハ自由ナルカ如クナルヘシ此ノ點ニ付テハ何レノ學者モ異論ヲ挾マサル所ニシテ問題トナルヘキハ領空即チ直接ニ國家ノ利害ニ係ルヘキ範圍ノ飛行ナリトス

### 其二 領空ニ於ケル飛行權

領空ノ飛行ニ關シ全ク之ヲ自由ニ委スヘカラサルコト多數學者ノ一致スル所ナルハ前ニ述タル所ヲ以テ知ルヘクヘアルネ氏ノ如キハ殊ニ嚴密ナル見解ヲ持シ飛行器ハ其ノ軍用ナルト普通ナルトヲ問ハス特別ノ許可ナクシテ國境ヲ超エテ飛行スルヲ許スヘカラストナシ且ツ其ノ航路モ之ヲ一定スヘキ旨ヲ主張セリ然レトモ此ノ如キハ現在ノ國際法上



之ヲ認メサルノミナラス自由交通ノ主義ニ反シ到底採用ス可カラサル  
 モノニシテ特定ノ條件ノ下ニ領空ノ飛行ハ之ヲ許スノ原則ヲ採用スル  
 ヲ可ナリト信ス但シ其ノ條件如何ニ付テハ見解種々ニ分ルト雖モ要ス  
 ルニ國家ノ安寧ト利益トニ反セサルヲ以テ限度トスルヲ要スツレハ飛  
 行器ニハ必ス國籍ヲ示スヘキ特別ノ標旗ヲ附スルコト、萬國飛行器名簿  
 ニ登録シ公認證ヲ所持スヘキコト、萬國信號書ノ通用ヲ承認シ且ツ他國  
 領土ヲ通過スルニ際シ其ノ國ノ命令ヲ遵奉スヘキコト、指示セラレタル  
 以外ノ航路ヲ飛行スヘカラサルコト、他國領土ノ上ヲ飛行セムトスルニ  
 際シテハ之ヲ豫告スヘキコト等各種ノ條件ヲ提供スル學者アリト雖モ  
 未タ國際上ノ法規ヲ成スニ至ラサルコト前ニ述タルカ如シ  
 此ノ如ク領空ノ飛行ニ關シ種々ノ問題ヲ生スルト共ニ之ニ關聯シテ更  
 ニ他國領域ニ於ケル飛行器ノ下降又ハ停繫ニ關スル諸問題ヲ生スヘシ、  
 即チ他國領域ニ下降シ停繫スルハ自由ナリヤ否ヤ、國家ハ其ノ領域ニ一  
 時下降シ又ハ停繫セル飛行器ニ關シ如何ナル程度ニ於テ其ノ權力ヲ行  
 使スルコトヲ得ルヤ、是レ其ノ軍用飛行器ナルト否トニ依リ自ラ程度ヲ

異ニセルヘカラス)難破シタル飛行器ハ如何ニ之ヲ取扱フヘキヤ等ノ問  
 題是レナリ共ニ學者ノ研究ヲ要スヘキモノトス

### 第三款 飛行器ノ性質及特權ニ關スル問題

飛行器ノ性質及其特權如何ハ領空及飛行權ノ問題ト共ニ國際法上ノ重  
 要問題タラサルヘカラス、而シテ某學者ハ曰ク普通飛行船ハ之ヲ商船ニ  
 軍用飛行船ハ之ヲ軍艦ニ比スヘシト此論理ハ固ヨリ原則トシテ不可ナ  
 カルヘシト雖モ詳細ナル點ニ至テハ多クノ差異アルヲ發見スヘシ從テ  
 平戰兩時ニ於テ飛行器ノ取扱ニ關シ種々ノ問題ヲ生セサルヲ得ス商船  
 ト軍艦トハ其ノ構造ニ於テ差異アルヲ普通トスルモ飛行器ニアリテハ  
 目下ノ處(今後特種ノ武裝ヲナス一部ノモノヲ除ク)必シモ然ラス故ニ軍  
 用ト否トハ何ニヨリテ區別スヘキカ、普通飛行器ヲ軍用飛行器トナスハ  
 如何ニスヘキカ、軍用飛行器ハ如何ナル特權ヲ有スヘキカ、他國領空ニ入  
 リ又ハ領土ニ下降スル時ハ如何ナル取扱ヲ受クヘキカ等ニ付テモ將來  
 何等カノ規定ヲ必要トスヘク尙戰時ニ於ケル取扱ニ至リテハ更ニ幾多



ノ問題ヲ生スヘシ

一八二

#### 第四款 戰時ニ於ケル飛行器ニ關スル問題

戰時ニ於テハ飛行器ニ關シ種々ナル問題ヲ生スヘシ即チ戰時交戰國ノ軍用飛行器ハ他國ノ領空ヲ通過シ得ルヤ、他國領空ニ於テ交戰行為ヲ爲シ得ルヤ、他國領空内ニ停留シ得ルヤ、又他國領空内ヲ作戰根據地トナスコトヲ得ルヤ、他國領空内ニ於テ通信其他軍事上ノ行為ヲナスコトヲ得ルヤ、他國領土ニ下降シ又ハ停繫スルコトヲ得ルヤ、中立國ハ其ノ領空内ニ入りタル交戰國軍用飛行器ヲ如何ニ取扱フヘキヤ、其ノ領土ニ下降シタル軍用飛行器ハ如何ニ取扱フヘキヤ又交戰國雙方ニ於テモ敵國ノ軍用又ハ普通ノ飛行器ハ如何ニ取扱フヘキヤ、臨檢拿捕ハ如何ニスヘキカ等ノ問題之レナリ學者或ハ領空ト飛行器トヲ領海ト船舶トニ比シ之ニ關スル國際法規ヲ適用シテ飛行器ヲ律セムトスルモノアルモ之レ大體ノ理想トシテハ或ハ不可ナキモ、領空ハ元ヨリ領海ニアラス飛行器亦必シモ船舶ト同一視スヘカラサルノミナラス船舶ニ關スル法規ヲ取テ直

チニ飛行器ニ適用セントスルハ種々ナル困難ト不都合トヲ生スヘシ故ニ是等ニ關シテモ精細ナル研究ヲ要スヘシト信ス  
右ノ外詳細ナル點ニ至テハ國際法上種々ナル問題ヲ生スヘキモ今一々玆ニ列擧スルコトヲ爲サス要スルニ飛行器ニ關シテハ始ト國際法上何等ノ規定ヲ存セサルヲ以テ將來是等ニ關シ種々ナル實際問題ヲ生スルニ至ルヘシト信ス故ニ玆ニ各種ノ問題ノ一端ヲ擧ケテ以テ専門學者ノ研究ヲ俟タント欲スルナリ

一八三



明治四十三年六月十五日印刷

明治四十三年六月十八日發行

(空中飛行器與附)  
(定價金壹圓貳拾錢)

著者 小野庄造

發行者兼  
東京市麴町區麴町隼町四番地  
小林又七

電話番町千六百貳拾九番  
振替貯金口座東京二九六番

印刷所 陸軍省構内  
小林又七出張所

電話新橋九百四拾壹番

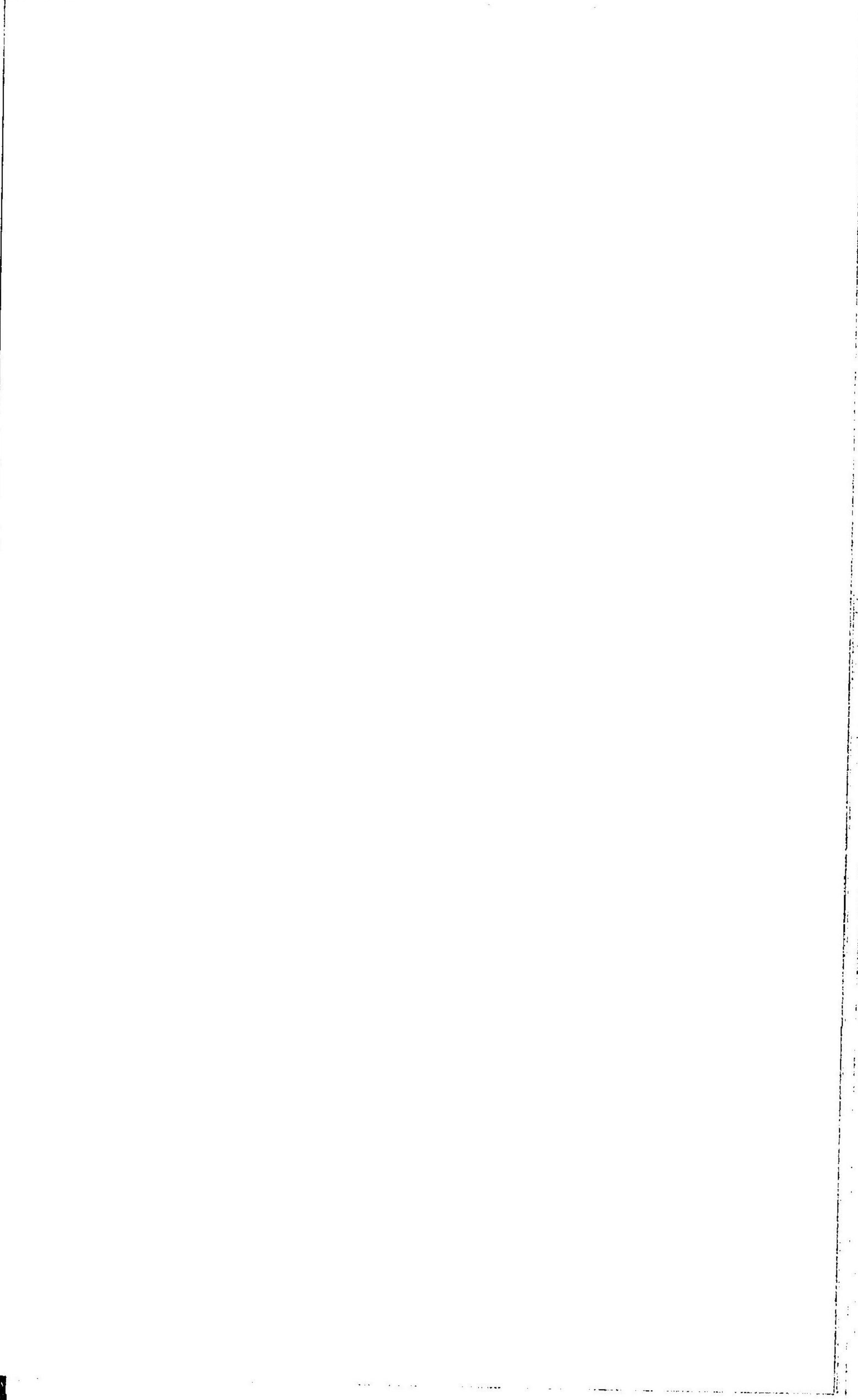
印刷所 東京市麴町區隼町二十一番地  
小林又七支店

電話番町百九拾壹番

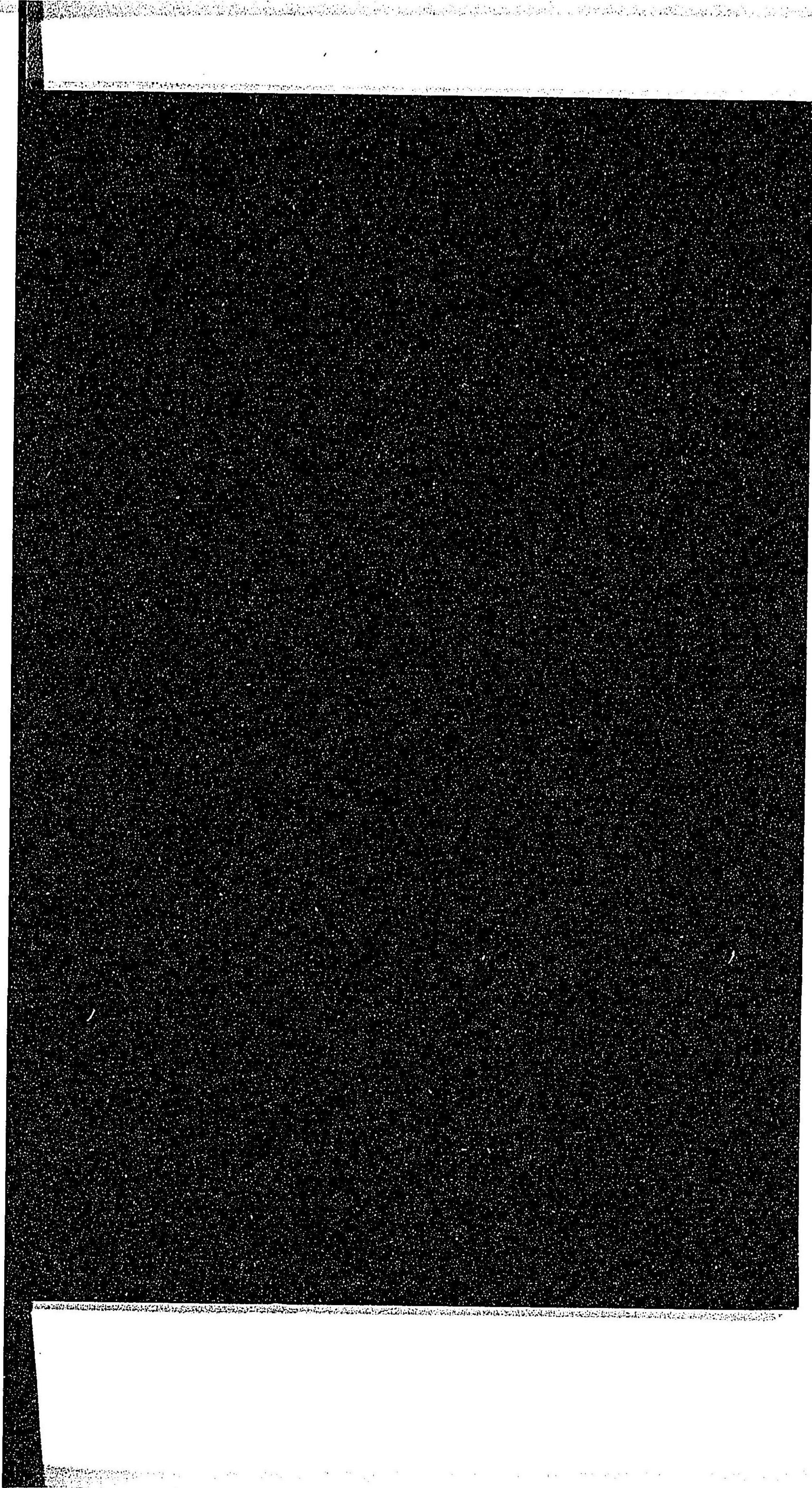
不許  
複製

發賣所 川流堂 小林又七本店











328

287

067036-000-7

328-287

空中飛行器之現在及将来

小野 庄造/編

M43.6

CDG-0134





